

レコライ・ミニ・ショップ

《 名曲特集 》

ショパン ワルツ全集

発行日:2026年2月10日

第1番「華麗なる大ワルツ」変ホ長調 op.18
／第2番「華麗なるワルツ」変イ長調 op.34-1
／第3番イ短調 op.34-2／第4番「華麗なるワルツ」ハ長調 op.34-3／第5番変イ長調 op.42
／第6番「子犬」変ニ長調 op.64-1／第7番嬰ハ短調 op.64-2／第8番変イ長調 op.64-3／第9番「告別」変イ長調 op.69-1／第10番口短調 op.69-2
／第11番変ト長調 op.70-1／第12番ハ短調 op.70-2
／第13番変ニ長調 op.70-3／第14番ホ短調遺作／第15番ホ長調
／第16番変イ長調／第17番変ホ長調／第18番変ホ長調／第19番イ短調／ワルツ・口短調[1952発見]

注文番号：1664

ショパン／ワルツ全集(16曲)／スレチンスカ(p)／米／デッカ／DL710017／チェック・ゴールド・ラベル／ステレオ／1960年録音／カット・アウト／オリジナル／第1面最後にノイズ有り。カリフォルニアの神童でベトリ、シュナーベル、コルトー、ラフマニノフの教えを受けた名女流。表情豊かで女性的な繊細さは多くのファンを得た。残された数枚の録音では、作品の違いを強調するかの演奏は変化に富んでいて興味深い。

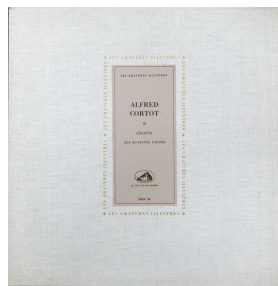
P／2200円



注文番号：1661

ショパン／ワルツ全集(14曲)／コルトー(p)／仏／パテ／COLH32／グレー・ラベル／モノラル／棒付きジャケット／1934-5年録音／これを古風な名演奏と言って済ますことはできない。ショパンの死から80年を超えたばかりで、言わば3～4世代前のショパン直伝の演奏が十分に残されている。ルバートや独特なアクセントは考えさせるものがあり、豊かに漂う詩情もまた、語り継がれるべきものである。

G／11000円



注文番号：1665

ショパン／ワルツ全集(14曲)／フランソワ(p)／仏／パテ／2C069-10602／新ラベル／ステレオ／赤枠ジャケ／1963年録音／ナチスによるパリ占領下、第1回ロン・ティボー・コンクールで優勝して話題となり、戦後活動を開始したフランソワ。これはサル・ワグラムでの録音／第3番イ短調にはフランス人ならではの他の誰にも聞かれない独特の詩情が溢れており、40代半ばでの彼の逝去は今でも惜しまれる。

G／2750円



注文番号：1662

ショパン／ワルツ全集(14曲)／リパッティ(p)／英／EMI／HLM7075／新カラー切手ラベル／モノラル／1950年録音／名技師グリフィスによる復刻／これはスタジオ録音で、他に有名な告別演奏会での録音もある。とても動きのある演奏で、この作品がワルツ(舞曲)であることを再認識させる。かと言って安定したリズムではなく決してこれを伴奏に踊ることはできない。何度も躓きそうだ。リパッティの繊細さよりも生命力を聴く盤だ。

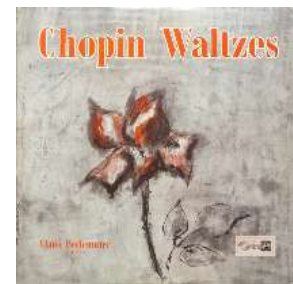
G／2200円



注文番号：1666

ショパン／ワルツ全集(14曲)／ペルルミュテール(p)／独／コンサートホール／SMS2337／プラム・ラベル／ステレオ／1962年録音／作曲家の意図を徹底して追求した演奏であり、楽譜から読み取れる究極の演奏を目指している彼らしい演奏で、聴く者を納得させる。奇を衒った音や表現は全くなく、それでいて中庸をゆくピアニズムではなく、語るべきをしっかりと聴かせてくれるのである。

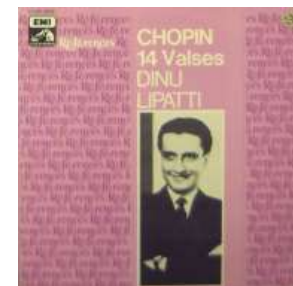
G／2750円



注文番号：1663

ショパン／ワルツ全集(14曲)／リパッティ(p)／英／EMI／HLM7075／リファレンス・ロゴ・ラベル／モノラル／1950年録音／リファレンス・シリーズ／前番号のフランス再発売／心なしか音が落ち着いて聴こえるが英・仏盤の違いだろう。人気ピアニストリパッティの数少ない録音は各国のEMI系レーベルでプレスされている。愛好家の中で仏リファレンスの復刻は極めて人気が高く信頼されている。ウォルター・レッグのプロデュース。

G／1650円



注文番号：1667

ショパン／ワルツ全集(14曲)／S.アスケナーズ(p)／独／グラモフォン／136397／チューリップ・ラベル／ステレオ／赤ステレオ・ジャケット／1962年録音／オリジナル／入手難／ショパンの孫弟子に当たる母親から最初の手ほどきを受けたアスケナーズは紛れもないショパン弾きであり、すべての音がキラキラと輝いて自信のほどを示している。曲のまとめ方が堂に入っており、極めて自然で気持ちが良い。

G／6600円



注文番号：1668

ショパン／ワルツ全集(14曲)／ルービンシュタイン(p)／独／RCA／LSC2726B／レッド・ラベル／ステレオ／1963年録音／オリジナル／モノラル末期からステレオ初期にかけてのショパン演奏はルービンシュタインの独壇場であった。あの腕を高い位置から振り下ろす独特のポーズは忘れられない。ポーランド人の彼にとってショパンは最も親しめる作曲家であり、すべてを肯定して美しい表現を目指した。

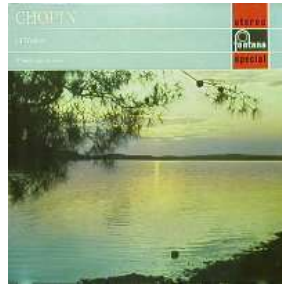
G／1650円



注文番号：1669

ショパン／ワルツ全集(14曲)／ウェルナー・ハース(p)／蘭／フィリップス／700162WGY／シルヴァー・ロゴ・ラベル／ステレオ／1960年代前期録音／フォンタナ。スペシャル・シリーズ／師ギーゼキングの再来と言われたが45歳で自動車事故で命を絶った名手。音楽を労わる様に奏でる優しさはハースの演奏の特徴である。ドビュッシーとラヴェルに極上の演奏をした彼だが、自然発生的なショパンも捨て難い。

G／1650円



注文番号：1670

ショパン／ワルツ全集(14曲)／アントルモン(p)／英／CBS／61078／レッド1eye ラベル／ステレオ／1967年録音／米コロムビア原盤／再発売／マルグリット・ロンに師事したフランス人アントルモンはショパンの録音も多い。この録音時は33歳。決して詩情のみがショパンではなく毅然とした造形も加えて、考え抜かれた表現をする。ワルツでは誰もが美的演奏に走るがアントルモンはショパンの気骨も感じているようだ。

G／1320円



注文番号：1671

ショパン／ワルツ全集(19曲)／ハラシェヴィチ(p)／蘭／フィリップス／6580003／シルヴァー・ロゴ・ラベル／ステレオ／1969年録音／再発／ユニヴェルソ・シリーズ／1830年のパリ革命の後の自由思想の風を受けて作曲が続けられたワルツの数々。郷土色に現代味も加えたショパン弾きハラシェヴィチの時には目の覚めるような技が繰り出す。自信溢れる表現と、時には暴走するような表現も十分に納得できる。

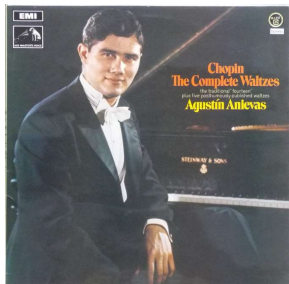
G／1320円



注文番号：1672

ショパン／ワルツ全集(19曲)／アリエヴァス(p)／英／EMI／HQS1208／ワイン・レッド・ラベル／ステレオ／1969年録音／特にテンポの遅い作品には詩情が漂う美しい演奏だ。ジュリアード出身にしては固い表現にならず、常に音楽を楽しみながら演奏する姿は、コンクール上がりの腕利きの多かった当時としては珍しいタイプだった。積極的に売り込むタイプではなく、聴く者に心が伝われれば満足だと言ったアプローチは珍しい。

G／1650円



注文番号：1673

ショパン／ワルツ全集(14曲)／ツィメルマン(p)／独／グラモフォン／2530965／ブルー・ライン・ラベル／ステレオ／1978年録音／オリジナル／若さ(当時22歳)に似合わず落ち着いた演奏は、明るい響きによっていっそう清新な感じを発散させている。深味ある演奏には程遠く常に直感を大切にした即興的な味わいがある。この演奏はピアノを学んでいた若い世代には願ってもない手本になったのではないだろうか。

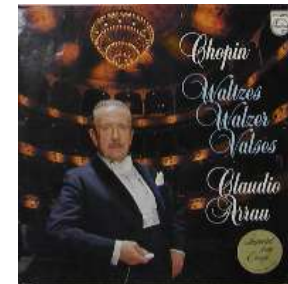
G／2200円



注文番号：1674

ショパン／ワルツ全集(14曲)／アラウ(p)／蘭／フィリップス／9500739／ホワイト・ロゴ・ラベル／ステレオ／1979年録音／オリジナル／2曲を除きアラウの初録音／基本をドイツ物に置きながらも、リストやショパンなども積極的に演奏したアラウ。演奏は重みのあるものの、言わば大人の音楽としてショパンを聴かせる味わいの深さがある。これは多くのコンクール上がりの若手には決して及ばないことで、汲みつくせぬ魅力がある。

G／2200円



注文番号：1675

ショパン／ワルツ全集(19曲)／アレクセイエフ(p)／米／エンジェル／AE34488／新ラベル／デジタル／1984年録音／エミネンス・シリーズ／カット・アウト／テンポの動きは明らかに踊る音楽としてのワルツを意識していない。ショパン自身舞踏会場での演奏など期待していなかっただろう。これは辛うじてワルツの形を持った抒情詩であることを実証しているのがこの演奏である。一方で良く聴かれる過度なルバートもここには無い。

G／1650円

